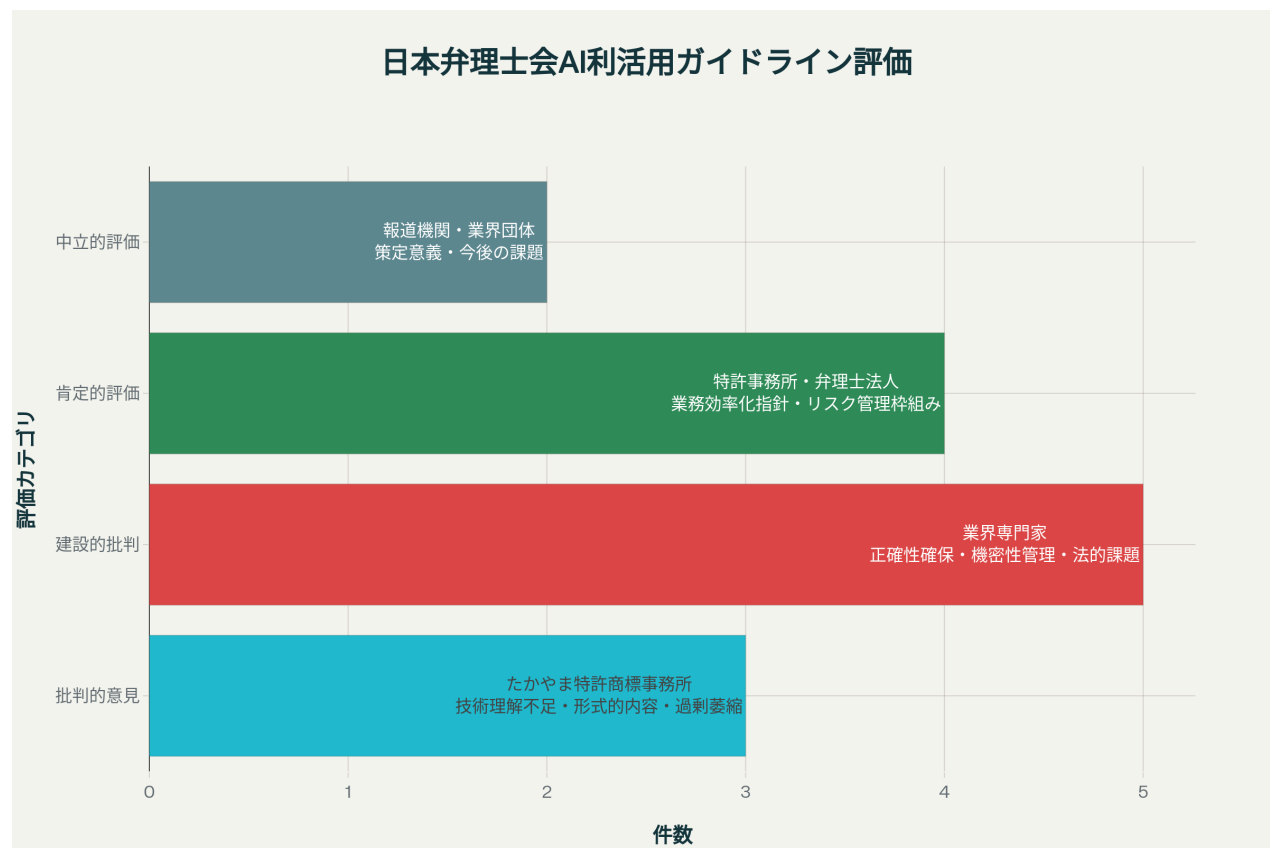




日本弁理士会の生成AI活用に関するガイドラインの評判・評価に関する徹底調査

令和7年4月に日本弁理士会が策定・公表した「弁理士業務AI利活用ガイドライン」について、業界内外から多様な評価と反応が寄せられています。本調査では、ガイドラインの内容、策定背景、そして業界関係者による詳細な評価・批判を徹底的に分析いたします。^[1] ^[2] ^[3]



日本弁理士会の生成AI利活用ガイドラインに対する評価の分布

ガイドラインの概要と策定背景

ガイドラインの基本方針

日本弁理士会のガイドラインは、弁理士がAI技術、特に生成AIを活用する際の基本的な留意事項を整理したものです。ガイドラインの主要な目的は、弁理士がAI技術の特性やリスクを十分に理解し、適切かつ効果的に活用することで、クライアントに対して従来を上回る生産性と質の高いサービスを提供することにあります。^[1] ^[2]

ガイドラインは、生成AIを「弁理士業務を効率化する道具」として位置づけながらも、**最終的な責任は弁理士が負う**ことを明確に定めています。AI生成物の正確性は保証されておらず、善管注意義務

(民法644条)に基づく弁理士の職責として、生成物の十分な検証が義務付けられています。^{[2] [1]}

策定に至る背景と経緯

ガイドライン策定の直接的契機は、2024年1月29日に開催された産業構造審議会知的財産分科会第20回弁理士制度小委員会での議論でした。この場で「日本弁理士会において、弁理士によるAIツールの適切な利活用を促すガイドラインを作成すること」が提言・決定されました。^{[4] [5]}

ChatGPTの公開(2022年末)以降、生成AIが爆発的に普及し、知財業界でも試験的導入が相次ぎました。日本弁理士会としても会員間で混乱やリスクが生じないように、統一的な指針を示す必要があると判断したのが背景にあります。^[4]

業界からの詳細な評価・批判

最も厳しい批判：たかやま特許商標事務所の見解

最も詳細で厳しい批判を展開しているのが、**たかやま特許商標事務所の高山嘉成弁理士**です。同弁理士は、弁理士会のガイドラインに対して以下の根本的な問題を指摘しています。^{[6] [7]}

技術理解の不足

弁理士会のガイドラインが「生成AIの本質的理解や技術的実態の分析を欠いた形式的な内容にとどまっている」と厳しく批判しています。特に、「サーバにデータが保存されるから危険」「再学習されるか否かの技術設定を無視して同意の有無で判断する」といった「本質を外した形式論に基づく過剰な萎縮を助長する内容」が含まれていると指摘しています。^{[7] [6]}

オプトアウト設定に関する誤解

ChatGPTなどのオプトアウト設定について、「再学習に使われるか否かを制御するもの」であり、「情報が第三者に公開されるかどうかとは無関係」であることを明確にし、ガイドラインの解釈に技術的誤解があると主張しています。^{[8] [7]}

新規性喪失に関する過度な懸念

「ChatGPTに入力するとOpenAI社のサーバに記録が残るから、新規性を喪失する」という主張について、OneDrive、Google Drive、Dropboxなど他のクラウドサービスとの整合性を欠いた非論理的な議論であると反論しています。^{[7] [8]}

同弁理士は、これらの問題を受けて独自の「生成AI (ChatGPT) 安全利用ガイドライン【第1版】」を2025年3月に策定し、「**技術**」と「**法**」の正しい理解に基づく、**前向きなAI活用**を推進する立場を明確にしています。^{[6] [7]}

業界専門家による建設的批判

正確性と信頼性の課題

業界専門家からは、生成AIの**ハルシネーション問題**(虚偽情報の生成)への対策が不十分であるとの指摘があります。特許文書は法的文書であるため、些細な誤りが権利範囲に影響を及ぼし、出願の成否を左右する可能性があります。^[9]

機密性管理の複雑さ

クラウドAIに未出願の特許情報を入力することによる**データ漏洩リスク**と、企業内でオンプレミス型AIを運用する際の**コストや管理負担**のトレードオフが課題として挙げられています。^[9]

法的・倫理的課題の未解決

AI生成文の著作権の扱いや、AIが発明した技術の特許出願の可否が法的に明確でない状況で、ガイドラインが十分な指針を提供していないとの批判があります。^[9]

肯定的評価と実践的採用

IPTech弁理士法人の取り組み

IPTech弁理士法人は、日本弁理士会のガイドラインを評価し、これに準拠した独自の「IPTech生成AI活用ガイドライン（β版）」を策定しました。同法人は、日本弁理士会のガイドラインや経産省・JDLAのガイドラインを参考にし、顧客情報保護を最優先に据えた運用基準を定めています。^[10]^[11]

実務への具体的適用

同法人では、暗号化や再学習禁止など安全要件を満たす生成AIのみを使用し、生成AIはあくまで補助ツールと位置付けて専門的判断は引き続き弁理士が行うことを明文化しています。また、顧客から希望があればAI不使用対応も継続するなど、利用可否の選択肢も用意しています。^[10]

報道機関による客観的評価

読売新聞の報道

読売新聞は2025年5月19日の記事で、ガイドライン策定の意義を客観的に報道しました。「特許登録に必要な『新規性』に関わるような秘密情報を生成AIに入力する場合は顧客の合意を得ること」「生成された情報の真偽を弁理士自身が確認すること」など、ガイドラインの主要ポイントを的確に伝えています。^[3]

慎重・保守的対応

一部の特許事務所では、**AIを業務に使用しない安全第一のポリシー**を採用する動きも見られます。これらの事務所は「何かを生成AIに学習させることは、世の中に公表するのと同じおそれ」との観点から、リスクを完全に回避する方針を取っています。^[12]

ガイドラインの実用性と今後の課題

実装上の課題

技術理解の格差

業界内で生成AIの技術的理解に大きな格差があり、ガイドラインの解釈や適用において混乱が生じています。特に、クラウドサービスの仕組みやオプトアウト設定の意味について、正確な理解が不足している状況があります。^[7]

コスト対効果の検討

企業向けのオンプレミス型AI導入には高い運用コストが必要であり、特許事務所や企業の知財部門が単独で運用するのが困難なケースが多くあります。一方で、クラウド型AIのリスクとのバランスをどう取るかが実務上の大きな課題となっています。^[9]

業界への影響

二極化の進行

ガイドラインの策定により、AI活用に積極的な事務所と保守的な事務所の二極化が進んでいます。前者は独自のガイドラインを策定してAI活用を推進する一方、後者はリスク回避のためAI利用を完全に禁止するなど、対応が分かれています。^{[11] [12]}

競争環境の変化

AI導入により業務効率化を進める事務所と、従来手法を維持する事務所との間で、**コスト競争力に格差**が生じる可能性が指摘されています。これが業界全体の価格構造や淘汰に影響を与える可能性があります。^[13]

国際的な動向との比較

海外での取り組み

アメリカやヨーロッパでも同様のAI活用ガイドラインの策定が進んでおり、日本の取り組みは国際的な流れに沿ったものです。ただし、各国の法制度や業界慣行の違いにより、具体的なアプローチには差異があります。^[14]

USPTO（米国特許商標庁）の動向

米国では2025年7月21日から特許審査官にAIツールの使用が義務付けられるなど、より積極的なAI活用が推進されています。これに対し、日本のガイドラインはより慎重なアプローチを取っています。^[14]

今後の展望と提言

ガイドラインの改善方向

技術理解の向上

業界全体での生成AI技術に関する正確な理解の向上が不可欠です。特に、クラウドサービスの仕組みやセキュリティ機能について、技術的に正確な情報に基づく判断が求められています。^[7]

実用的な指針の提供

現行のガイドラインが「形式的な内容にとどまっている」との批判を受け、より実用的で具体的な運用指針の策定が求められています。^{[6] [7]}

業界の方向性

AI活用の標準化

各事務所が独自のガイドラインを策定している現状から、業界全体で統一的なAI活用基準の確立が期待されています。^{[10] [11]}

教育・研修の充実

弁理士がAI技術を適切に理解し活用できるよう、継続的な教育・研修プログラムの整備が重要です。^[15]

結論

日本弁理士会の生成AI活用ガイドラインは、業界初の統一指針として重要な意義を持つ一方、技術理解の不足や過度に保守的なアプローチに対する厳しい批判も受けています。特に、たかやま特許商標事務所からの詳細な技術的批判は、ガイドラインの根本的な見直しの必要性を示唆しています。^{[6] [7]}

一方で、IPTech弁理士法人のような積極的な実践例も生まれており、ガイドラインが各事務所の取り組みの出発点として機能していることも確認できます。^[10]

今後は、技術的に正確な理解に基づくガイドラインの改訂と、業界全体でのAI活用に関する知識向上が重要な課題となっています。AI技術の急速な発展に対応するため、継続的な見直しと実務に即した指針の提供が求められています。^[7]

弁理士業界におけるAI活用は、単なる効率化ツールとしての位置づけを超えて、業界の競争力や専門職としての価値創造に直結する重要な要素となっており、今後の動向が注目されます。



1. [Alservices-guideline.pdf](#)
2. <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/Alservices-guideline.pdf>
3. <https://www.yomiuri.co.jp/culture/20250519-OYT8T50119/>
4. <https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/b7463e10870a440452a5.pdf>
5. https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/benrishi_shoi/20-gijiyoushi.html
6. takayamaTe-Xu-Shang-Biao-Shi-Wu-Suo-Sheng-Cheng-AI-ChatGPT-An-Quan-Li-Yong-kaitorain-Di-1Ban-...A.pdf
7. <https://takayama-patent.com/archives/2730>
8. <https://takayama-patent.com/archives/2723>
9. https://note.com/yutori_jd/n/n3831a1e6769b
10. <https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/fce0a656f65a0771dffe.pdf>
11. <https://yoroziupsc.com/blog/ai2448159>
12. <https://note.com/tokkyoblog/n/n8c360c222def>
13. <https://note.com/daisuke16/n/n8af40af124b5>
14. <https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/a69445117cc70feea3ac.pdf>
15. <https://ai-keiei.shift-ai.co.jp/benrishi-ai-sha-in-kyoiku/>
16. <https://ai-keiei.shift-ai.co.jp/benrishi-ai/>
17. https://www.jpaa.or.jp/old/activity/publication/patent/patent-library/patent-lib/201701/jpaapatent201701_098-104.pdf
18. <https://aamtjapio.com/kenkyu/files/symposium2024/oosawa.pdf>
19. <https://ai-keiei.shift-ai.co.jp/benrishi-ai-gyomu-kouritsuka/>
20. https://www.weeklybcn.com/journal/feature/detail/20240912_206001.html
21. <https://note.com/chizaijuku/n/ndc13ec393d7e>
22. <https://zelojapan.com/lawsquare/53792>
23. <https://www.jpo.go.jp/resources/report/chiiki-chusho/document/r5-chusho-shien-bunseki/report.pdf>

24. <https://diamond.jp/articles/-/349746>
25. https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/ict/pdf/ai_guideline.pdf
26. https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/chizai_bunkakai/document/19-shiryou/04.pdf
27. https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/chitekizaisan2024/pdf/siryou2024_2.pdf
28. <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/03/120th-anniversary-magazine.pdf>
29. <https://ascii.jp/elem/000/004/148/4148646/>
30. <https://iptech.jp/info/250328>
31. <https://businessandlaw.jp/articles/a20250711-1/>
32. <https://knpt.com/contents/thesis/00037/00037.pdf>
33. https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/senryaku_wg/document/index/00.pdf
34. https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/tokkyo_shoi/document/53-shiryou/01.pdf
35. https://www.jpaa.or.jp/old/activity/publication/patent/patent-library/patent-lib/201204/jpaapatent201204_105-121.pdf
36. https://x.com/SmartIP_kk/status/1914452541271916688
37. <https://www.tmi.gr.jp/eyes/blog/2024/16345.html>
38. http://www.naist.jp/sankan/doc_tpl/report_download/2007/program/all-copyright.pdf
39. <https://techgym.jp/column/benrishi-fuyo/>
40. <https://www.soei.com/wp/wp-content/uploads/2023/07/AI（-人工知能）は弁理士の仕事を奪うか否か.pdf>
41. <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-article75.pdf>
42. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/7030df962e39962ed243.pdf>
43. https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/guideline/patent/ai_jirei.html
44. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/4642>
45. <https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/business/ai/ai-guideline>
46. <https://iptech.jp/info-cat/お知らせ>
47. https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/sesaku/ai/ai_protection_chousa.html
48. https://note.com/ryu_yuasa/n/n1d0bef61ab8a
49. https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/benrishi_shoi/document/20-shiryou/02.pdf
50. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/3945>
51. <https://www.ipaj.org/workshop/2023/pdfs/S01.pdf>
52. https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/chiteki_zaisan/fusei_kyoso/pdf/026_gijiroku.pdf
53. <https://www.macnica.co.jp/business/ai/blog/146563/>
54. https://www.jpaa.or.jp/news/news_category/information/
55. https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/chitekizaisan2024/0528_ai.pdf
56. <https://toreru.jp/media/trademark/7253/>
57. https://note.com/i_go_so/n/n984519efe04e
58. https://note.com/ose_yosshy/n/n1a68f721008c

59. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/cd3e34e02d418d504adae4a169a77013/d04dd47d-b599-4242-8fe5-8872361f16c3/5694353e.csv>